

書店商業組合と連携した「やまなし読書活動」の促進について

【目指す姿】

本県が「読書県」として全国に認知され（「趣味としての読書」「県民一人あたりの書籍購入費」1位）、読書活動が個人の楽しみとしても、コミュニケーションツールとしても確立している。

【連携の方法】

1 合同推進実行委員会の立ち上げ

○ 社会教育課、図書館、書店商業組合で合同推進委員会を立ち上げ、向こう3年間の方向性を策定する。（4年目以降は、3年目に活動を総括し再度策定する）

（例）

○ 1年目（県中心でイベント等を実施。書店に理解を得る）

- ・ やまなし読書活動促進事業ポスターの掲示、チラシの配布
- ・ 公募の回収への協力
- ・ エピソード入賞の本コーナーの設置
- ・ 贈りたい本大賞入賞の本コーナーの設置
- ・ サードステージのビブリオバトルに代表者が参戦（優勝したチームの本を、会場投票者1名にプレゼント）

※ 事業への参加意識を高めるために、書店組合でも選定委員会を組織し「書店賞」を出してもらおう。

○ 2年目（県中心にイベント等を実施するが、書店も積極的に協力）

- ・ 公募やイベントに関わるお知らせを各書店で作成・掲示
- ・ 「贈りたい本大賞」公募（優秀賞5点の本をプレゼント）
- ・ メインイベント時（辻村深月講演会）に関連本の予約・販売コーナーの設置
- ・ 贈る本のラッピングサービス（未開封の本に限り、本の交換サービスを含む）

○ 3年目（県と書店がともに企画を相談しながら実施）

- ・ 県は、年1回の講演会の実施のみ
- ・ 書店商業組合で「やまなし本屋大賞」を実施（県教委は後援）
- ・ 「やまなし本屋ネットワーク」の立ち上げ（インターネットで注文、近くの本屋に届くサービス）→本を購入する環境の整備
- ・ 書店組合でイベントの実施（後援、ゆるキャラの派遣）

2 1年目の今後（さらに書店の理解を得るために）

- ・ セカンドステージ、サードステージ実施時に、ご家族を含め、ある程度の人数(50)の参加要請を行う
- ・ 販売時に事業を周知してもらおう
- ・ レジ周りに、ロゴマークを貼ってもらおう

3 長期的な展望の中で実施したい事業

- 大人の読書会「ワインと本と作者と」（参加料 5,000 円）防災新館 1 F レストランに、作者を招き、ある会話に込められた作者の思いを聞きながらワインを味わう（各回限定 30 名）

※参加料に、グラスワイン 2 杯分＋書籍費

→大人の趣味に「読書」を定着させるきっかけとなる可能性。